

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第44週（11月1日～11月7日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病に引き続き注意を」

第44週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,961例であり、前週比11.8%増であった。

定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.27、3.29、1.22、0.43、0.37である。

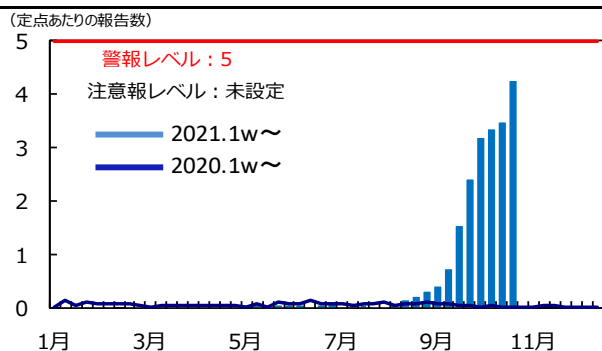
手足口病は前週比22%増の841例で、南河内6.75、中河内6.00、北河内5.88、大阪市北部5.86、大阪市南部4.56であり、南河内、中河内、北河内、大阪市北部の4ブロックで警報レベル基準値5を超えている。

感染性胃腸炎は10%増の648例で、大阪市南部5.78、南河内5.13、大阪市西部5.00であった。

ヘルパンギーナは2%減の240例で、大阪市北部3.79、南河内1.56、中河内1.45である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は11%減の85例で、中河内1.65、大阪市南部0.61、南河内0.56であった。

手足口病



感染性胃腸炎

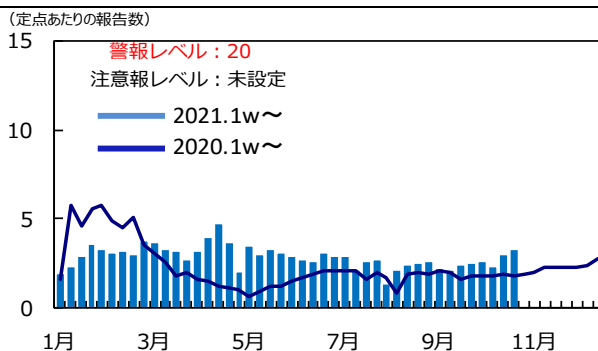


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第44週11月1日～11月7日）

第44週の順位	第43週の順位	感染症	2021年 第44週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第44週の 定点あたり 報告数	2021年第44週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	手足口病	4.27	22%増	0.02	1歳_48%
2	2	感染性胃腸炎	3.29	10%増	1.81	1歳_18%
3	3	ヘルパンギーナ	1.22	2%減	0.36	1歳_36%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.43	11%減	0.56	10-14歳_20%
5	5	突発性発しん	0.37	20%増	0.36	1歳_60%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	33%増	0.01	20歳以上_75%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第44週のコメント

～カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症～ 2014年9月、5類全数把握感染症となり、感染症発生動向調査では、全国で年間1,500例を超える報告があります

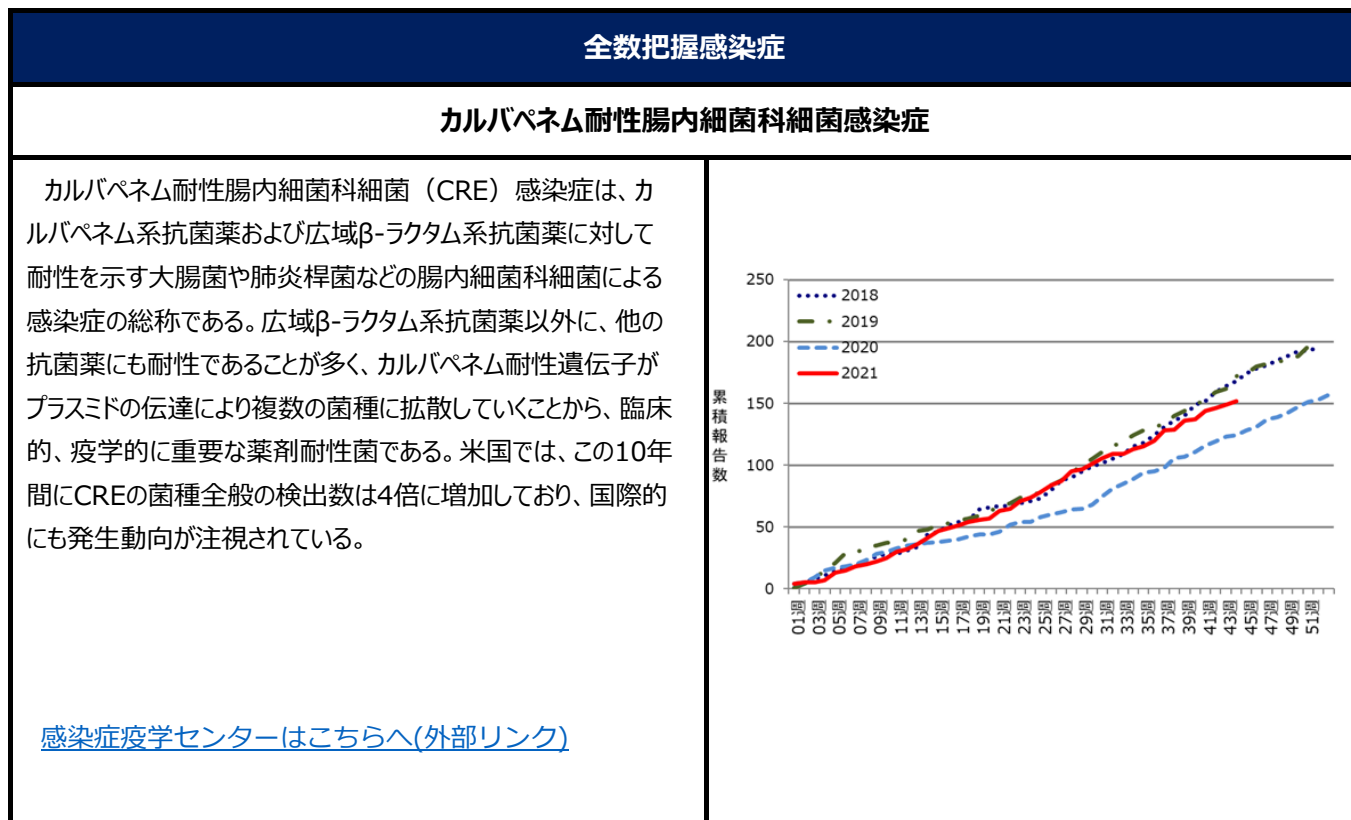


表 2. 大阪府全数報告数（2021年 第44週11月1日～11月7日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内累積報告数										
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1									1		162
4類感染症	日本紅斑熱	1									1		8
	レジオネラ症（肺炎型）	2									2		117
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	1			2							152
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1										29
	後天性免疫不全症候群	2			1						1		84
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		1						1			16
	侵襲性肺炎球菌感染症	2		1							1		79
	梅毒	6	1	1		1					3		693
	百日咳	2								1	1		33
新型コロナウイルス等感染症	新型コロナウイルス感染症	226	2020年1月以降累計 202,692										
結核 (2021年9月分)	結核 新登録患者数：73名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 35名) (府内累積報告数 832名、内 肺・喀痰塗抹陽性 323名)												

(2021年11月9日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。